

カキ「太秋」の露地栽培に適した仕立て・整枝法

カキ「太秋」において、平棚仕立てが立木仕立てより、立木仕立ての整枝法では変則主幹形が開心自然形より樹冠拡大が早く、早期成園化を図ることができる。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者 :岡田眞治)

研究のねらい

「太秋」は、従来の主要品種と比べ、台風による落果や傷果発生が多いため平棚仕立ての導入が進んでいるが、頂芽優勢が強く結果母枝が側枝先端部に偏りやすい、弱小枝には雄花が付き樹勢が弱りやすい、陰芽の発生が少ない、枝が硬くて折れやすい、などの欠点がある。

そこで、平棚仕立てと立木仕立ての樹を比較検討し、「太秋」に最も適した仕立ておよび整枝法を選定する。

研究の成果

1. 平棚仕立て区 (以下、平棚区)、変則主幹形整枝区 (以下、変則区)、開心自然形整枝区 (以下、開心区) の順に樹冠拡大が早い。芯抜きを早く行う開心区では、主枝が立ちやすいため樹冠拡大が遅れる (図 1)。樹高については、樹齢が若いうちは区間差が小さい (データ省略)。
2. 1樹当たりの収量は平棚区が最も多く、開心区はその約半分で、変則区は両区の間程度である。この傾向は、後期落果の多かった10年生でも同様である (図 2)。
3. 果実品質については区間差は小さいが、平棚区、開心区、変則区の順に熟期がやや早い傾向がみられる (表 1)。
4. 1樹当たりの作業時間については、樹冠占有面積や着果数との関係が強く、平棚区、変則区、開心区の順に長い (データ略)。100果当たりになると、区間差は小さいが、平棚区、開心区、変則区の順にやや短い傾向がみられる (表 2)。

普及上の留意点

1. 本試験は、5m x 5mで植え付けた供試樹の畝間側に間伐樹を1本ずつ植え、それを縮伐中という条件で実施した。また、平棚仕立ては4本主枝、立木仕立ては慣行の3本主枝とした。
2. いずれの区とも、角度の狭い主枝を支柱などに誘引するとき、無理をすると裂けやすいので、2、3回に分けて目標の角度まで誘引していく。また、平棚仕立てで側枝を棚に誘引するときも、無理をすると折れやすいので、そういう枝は樹液が完全に動き始める4月上旬頃から棚付けをする。
3. 平棚仕立て、変則主幹形整枝とも、整枝がほぼ完了するまで芯を一部残しておく。ただし、その部分には、作業がしにくいのであまり多くの結果母枝を置かないようにする。
4. 初期投資を少なくするため、まず変則主幹形整枝を行い、5、6年生頃から平棚仕立てに移行させてもよい。

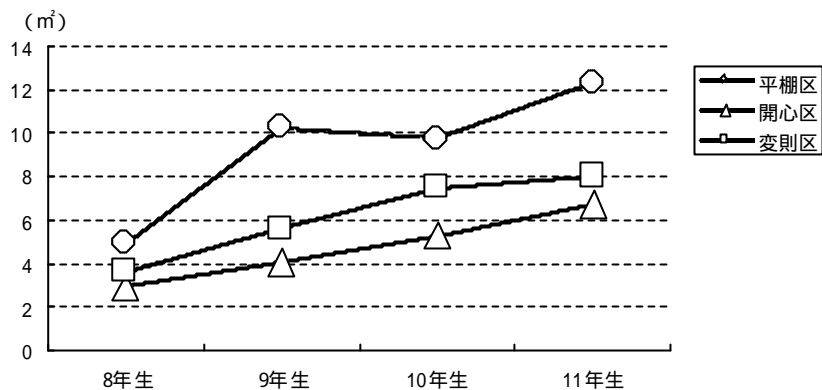


図1 カキ「太秋」の仕立て・整枝法と樹冠占有面積との関係

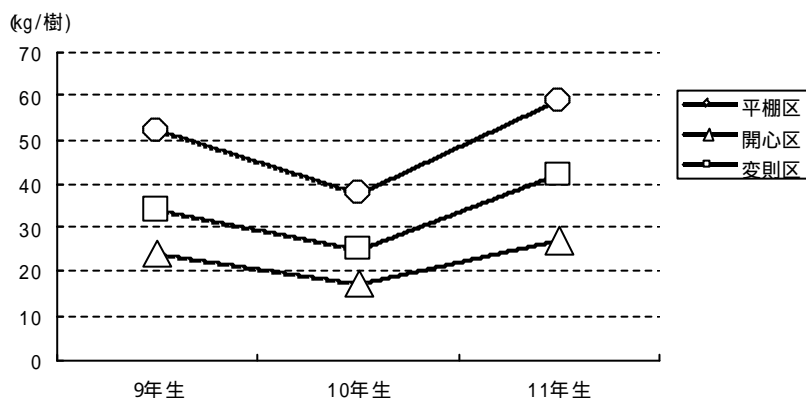


図2 カキ「太秋」の仕立て・整枝法と収量との関係

表1 カキ「太秋」の仕立て・整枝法と果実品質との関係

仕立て・整枝法	1果重 (g)	赤道部果皮色 (カラーチャート値)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	へたすき	条紋	汚損
平棚仕立て	435	4.4	5.2	17.1	2.0	2.6	1.2
開心自然形	434	4.1	5.6	17.4	1.6	2.4	1.2
変則主幹形	428	4.0	6.0	16.5	1.9	2.1	1.0

注)へたすきは0(無)、1(微)、2(小)、3(大)の4段階評価、条紋と汚損は0(無)、1(微)、2(軽)、3(中)、4(甚)の5段階評価
・9~11年生時までの平均値(1区1樹3反復)一斉収穫

表2 カキ「太秋」の仕立て・整枝法と100果当たり作業時間との関係

仕立て・整枝法	粗摘果	仕上げ摘果	袋掛け	収穫
平棚仕立て	12.5	13.8	32.0	20.1
開心自然形	11.0	14.3	32.5	21.3
変則主幹形	12.8	16.3	31.9	21.3

注)10、11年生時の平均値(1区1樹3反復)単位:分間